

まちは無くなっても、夢は消えない
理解・共感 世界に広がる、
「1000年後の命を守る」津波対策案

2011年3月11日 東日本大震災 発生

2011年4月 女川中学校に入学 はじめての社会科の授業

「ふるさとのために何ができるか、
考えてみないか？」



「こんなオモイをするのは、
自分たちで終わりにしたい」
「悲劇は絶対に繰り返さない」



辛い、見たくない…
だけど、1000年後の命のために、
向き合うことを決めた。

2011年5月

国語の授業
「今の素直な気持ちを俳句に込めてみよう」
中学生たちは、たくさんの俳句を詠んだ。

体験とどう向き
合わせるかを考
えた。大人は子
どもたちを全力
でサポートした。

「夢だけは
壊せなかった 大震災」
「見上げれば
がれきの上に こいのぼり」
「女川は今
何色に見えますか？」

津波対策実行委員会 発足
中学生が考える3つの津波対策案

1. 互いに絆を深める

- いざというとき大切なのは人のつながり
- 児童クラブ・老人ホーム訪問、行事PR

2. 高台へ避難できる町づくり

- 誘導灯、避難経路の整備。建物は高台へ
- 避難訓練の提案

3. 記録に残す

- 津波到達点に石碑を(いのちの石碑プロジェクト)
- 震災遺構について考える
- 命の教科書作り

2013年1月

平成24年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」
中学生部門 奨励賞を受賞

ぼうさい甲子園表彰式・発表会
“いのちの石碑プロジェクト”
100円×10万人募金がスタート

